

淡路島のヒメオサムシ

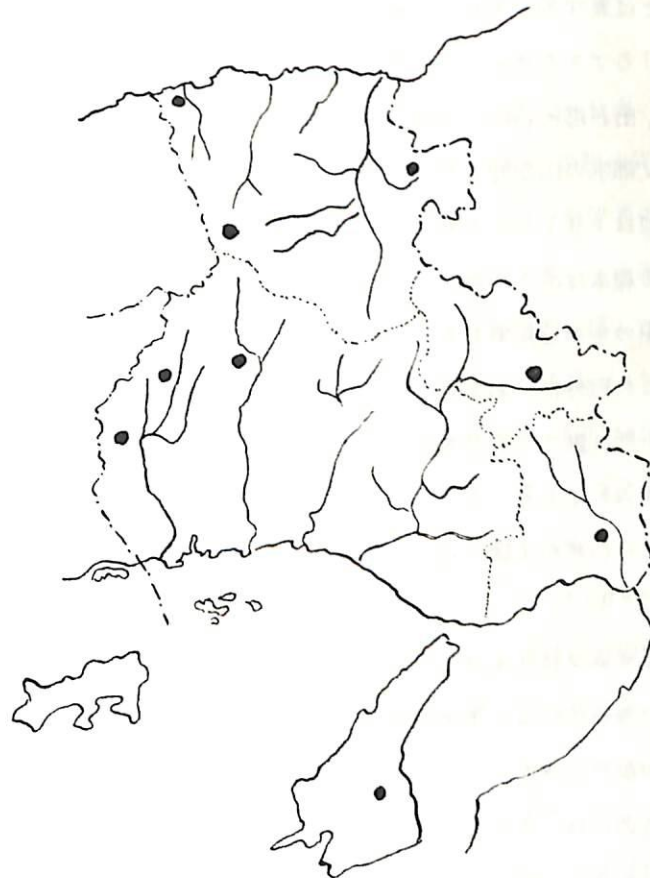
付：兵庫県下のヒメオサムシの分布

(兵庫県甲虫相資料・69)

高橋 寿郎

ヒメオサムシ *Carabus* (*Ohomopterus*) *japonicus* Motschulsky, 1857., が淡路島(先山)から記録されたのは桂 孝次郎氏の報文(1969)が始めてのようであるが堀田 久氏は1947年から既に採集しておられた(堀田, 1976)。筆者も同氏の御好意で同氏採集の先山産1♂(1950年8月16日)を御送り頂いて現在所有している。その後再び桂氏が淡路島産のヒメオサムシを報せられ(1971), 久松定成氏も写真を付してこの種の記録を発表しておられる。(1973)。

筆者は何んとか自分の手で採集してみたいものだとたゞ先山にはいるという知識のみで1978年3月9日この地方に採集を試みた。幸にして1♂, 3♀が採集出来この地方にいる確認が出来て大変喜んでいる。



兵庫県におけるヒメオサムシ(アキオサムシ)の分布

ヒメオサムシは日本の *Ohomopterus* 群の中でもっとも分布が広く、小形な種であるが地域的に可成りの分布～変化が見られる。

小宮次郎氏はこの群を6種に分けいくつかの型を認めている(1970)。淡路島産のヒメオサムシは *Carabus (Ohomopterus) japonicus chugokuensis* Nakane, 1961, アキオサムシとされている。*japonicus* は亜種 *japonicus* が南九州、高知、愛媛と所謂の四国、九州に分布する。その中に *f. karatsuanus* Nakane, 1961, カラツオサムシ(唐津), *f. ikiensis* Nakane, 1968, イキオサムシ(老岐)が知られている。亜種 *tsushimae* Breuning, 1932, ツシマオサムシは対馬にのみ分布する。亜種 *chugokuensis* Nakane, 1961, アキオサムシの基産地は島根県高城山であるが山口、広島、岡山、鳥取、兵庫、の各県いわゆる中国地方に広く分布しており個体数は必ずしも多くない。分布の東限は兵庫県の篠山となっており、それらの産地の中で篠山、山口南部、小豆島、の4ヶ所に産するものは若干異るとされている。

筆者の手許に *ssp. japonicus* (四国、松山産、1♂, 1♀), *f. karatsuanus* (佐賀県産、1♂), *ssp. tsushimae* (対馬産、1♂, 1♀)があるがこれ等は明らかに兵庫県産のアキオサムシとは異なる。*ssp. japonicus* のみ淡路産にやや似ている。

所で兵庫県下におけるアキオサムシの分布はどうなっているかと云えば淡路島の先山以外の県下の産地は多紀郡篠山、出石郡出石町、宝塚市大原野、神崎郡大河内町砥ノ峯、朝来郡生野、佐用郡大撫山、船越山、養父郡氷の山が知られているが篠山と大撫山を除けば大変少ない。

宝塚市大原野の産地は1978年5月21日奥谷楨一博士が少年自然の家構内で歩行中のものを採集された1♂でその標本は博士の御好意で見せて頂いた。神崎郡大河内町砥ノ峯産のものは頂上近くの道路上を歩行中のものを採集したもので(1♂, 1977年9月3日)、その後その地域の冬季採集をやったがこれ以外得られていない。

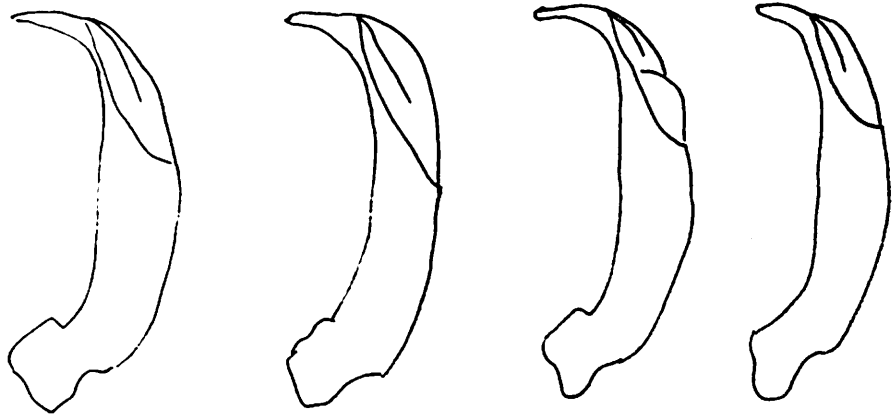
美方郡浜坂の宇都野神社裏で1978年10月17日掘り出した小さい個体のヒメオサムシに近い1♀は形態、色彩からしてダイセンオサムシ *Carabus (Ohomopterus) daisen* Nakane, 1953と思うのだが本種の標本を他に所有していないし♀であるので種の決定は保留している。

さて淡路島のヒメオサムシは基本型の *chugokuensis* と異なるとされている、同時に篠山産も基本型と異なるとされている。筆者は篠山にも採集に行ったが本種は全く採集出来なくてマヤサンオサムシばかりが採集出来た。また中国地方産のアキオサムシを所有していないので淡路島産がどの様に異っているのかははっきりしない。

佐用郡の大撫山には割合多く産するので、大撫山産♂と砥ノ峯産♂、先山産♂の交尾器を比べて

見た。

兵庫県産ヒメオサムシ(アキオサムシ)♂交尾器



先山産
1978.Ⅲ.9

砥峯産
1977.Ⅸ.3

大撫山産
1976.Ⅲ.13

大撫山産
1977.Ⅲ.11

交尾器の形状から見ればそれ程顕著な違いは無い。先山産はどちらかと云えば先端が尖っている。砥ノ峯産の交尾器は篠山産のものによく似ている。この事は生野産が篠山産に似ているとされているので(小宮, 1970), この辺のものは同じ様なものを産するのかもしれない。大撫山産のものは原型のものに近いように思われる。(中根, 1962)。

久松氏は淡路島産のものは明るい銅色を呈しているとされ, 桂氏も背面の色がすべて明るい赤銅色あるいは緑色の金属光沢をおびたもので *chugokuensis* の様に異色型のものは採集できないとされている。篠山産も明るい銅色をおびているとなっているが筆者の手許にある淡路島産のもの内1♀は可成り背面が黒色味がかっており, 大撫山産21♂, 31♀も可成り明るい銅色を呈するものもおりまた黒色味があったのも割合いる。むしろ外見的な感じからすれば淡路島産のものは大きいとうけとられる。実際に体長を計って見ると先山産♂23mm ♀24mm, 砥ノ峯産♂22mm, 大撫山産♂22.5mm, ♀23mmと淡路産のものがやゝ大きく原亜種によく似た感じを受ける。砥ノ峯産は大変小さい感じで篠山産も小さいとのことである。従って淡路島産のものが特に兵庫県産の他の地域のものとは大きな相違がある様には思われない。むしろもっと大きな視野で眺めて見ないとよくわからない(確かに *karatsuanus*, *ikiensis*, *tsushimae* とは明らかに違うし, *Ohomopterus* 群の中の他の種とは可成り違う。)それには中国各地, 九州, 四国の標本をもっと数多く検討して見ないとわからない, 逆に今迄の報文には兵庫県下の標本が余り検討されていない様な点が見受けられる。

以上の様なわけで淡路島のヒメオサムシ(アキオサムシ)は大変興味ある種の1つだとは思われる, だがなぜ先山にしか産しないかという点にははっきりしない, それと淡路島にどうしてマヤサン

オサムシがいないのだろうか，ヤマサンオサムシは兵庫県下では可成り広範囲に分布している種である（たゞそれ程多い種ではない）。記録では篠山，出石郡，水ノ山ではアキオサムシとヤマサンオサムシが混雑していることになっている。大撫山にはアキオサムシは可成り産し相当調べたがヤマサンオサムシがいない。兵庫県下で可成りの地点でのオサムシの調査をやっているがアキオサムシに就いてはほとんど採集出来ないのは何故だろうか等々，問題点はまだまだ残っている。

参 考 文 献

- 中 根 猛 彦 (1 9 5 2) : 日本の甲虫(4)
新昆虫, 5 (1 1) : 4 6 ~ 5 1 .
- 中 根 猛 彦 (1 9 6 2) : 日本昆虫分類図説
鞘翅目オサムシ科, 9 8 pp. 北隆館.
- 桂 孝次郎 (1 9 6 9) : 淡路島未記録のヒメオサムシ
OSAMUSHI (オサムシ研究会), 3 : 1 1 .
- 小 宮 次 郎 (1 9 7 0) : オオオサムシ類 (Apotomopterus) の分類
Insect Magazine, 7 6 : 2 2 - 6 4 , 5 pls.
- 小 宮 次 郎 (1 9 7 0) : 近畿地方オサムシ調査報告
Insect Magazine, 7 6 : 1 6 0 ~ 1 6 2 .
- 桂 孝次郎 (1 9 7 1) : 淡路島・小豆島のオサムシについて (中間報告)
追手門学院大学生物研究会々報, 4 : 1 - 5 .
- 日 浦 勇 ・ 桂 孝次郎 ・ 谷 幸 三 ・ 春日 圭太郎
富 永 修 (1 9 7 1) : 近畿地方におけるオサムシの地理的分布 (予報)
大阪市立自然科学博物館研究報告, No 2 5 : 2 7 - 4 2 .
- 久 松 定 成 (1 9 7 3) : 本四架橋ルートの島々の昆虫相
本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調
査報告書, pp 1 5 3 - 1 9 8 (ref. 1 7 6 , 1 9 8) .
- 堀 田 久 (1 9 7 6) : 先山の昆虫相 (I)
PARNASSIUS, No 1 6 : 1 1 - 3 2 .
- 中 根 猛 彦 (1 9 7 7) : 日本の昆虫 (4 3) おさむし科 5
昆虫と自然, 1 2 (9) : 4 - 8 .